

2020 年桜まつりアートコンテスト1位の鈴木さん、 全米の大会でファイナリストに！

スクウェア第 130 号で、習志野高校の鈴木涼太さんの作品が 2020 年桜まつりアートコンテスト高校生で 1 位に入賞したことを紹介しましたが、さらに YAAS(後に解説)の国際部門で 5 人のファイナリストの 1 人に選出されました、そこで今回、鈴木さんに応募や結果、作品について話をうかがいました。

—— タスカルーサの桜まつりアートコンテストで 1 位になったとき、また全米大会でファイナリストに選ばれたという知らせを聞いたとき、どう思いましたか。

鈴木 率直に言って嬉しかったです。全米大会と聞いたときは自分でも驚きました。1 年生で参加したときは結果を残せなかったので、そのぶん入賞できて本当によかったと思います。

—— 応募しようと考えた理由は何ですか。またテーマを考えて、どのようなコンセプト、デザイン等をイメージしましたか。

鈴木 先輩たちが毎年このコンテストで入賞していたので、自分もそれに憧れ、何らかの結果を残したいと思って応募しました。作品は、テーマから「世界を 1 つにまとめる」ということを考えて、世界でもただ 1 つしかない「空」の下に、各国の文化のイメージとなる建物、そして世界の平和を祈る人を描きました。

—— 作品を仕上げるにあたって、工夫した点、苦労したことはありますか。

鈴木 人と建物の間の遠近感を出すため、描

2020 テーマ "One World: Out of Many, We are One"



同じ空の下で Under the Same Sky

くものの大きさには気をつけました。建物は描き込む部分が多く、どうしても時間がかかってしまうので、地道な作業を続けるのに苦労しました。でも作品のメインとなる部分でしたから、最後まで描ききれてよかったです。—— ご自身の将来についてどんなことを考えていますか。

鈴木 将来は IT 系の職に就いて、世の中の役に立つものを作って貢献したいと考えています。部活動で作品を作るのは今年が最後ですが、絵は今後も描き続けたいです。自分の特技としても、さらに技術が向上できるように頑張ります。

—— その他何か言いたいことがあれば何でもお願いします。

鈴木 作品の制作について、様々なアドバイスをしてくださった美術の先生や、締切近くに特別に美術室を開けてくださった国語科の先生、そして保護者に感謝しています。また今回の入賞をとりあげてくださった国際交流協会にも感謝しています。



YAAS(YOUNG ARTISTS AND AUTHORS SHOWCASE)とは、全米国際姉妹都市協会のプログラムの一つで、さらなる国際協力や世界平和を実現するために、若者に表現活動の機会を与えるものです。毎年、テーマに沿って多くの美術作品や文学作品等が全米の都市及びその姉妹都市から応募され、優秀作品には賞が与えられます。

全米国際姉妹都市協会 (Sister Cities International)とは、世界平和や相互理解を目指し、芸術、文化、教育、貿易や地域の発展等に関するプログラムやプロジェクトを通して活動している非営利団体です。現在、約500の会員が149か国以上の国々とパートナーシップを結んでいます。